

職員による自己評価

A環境面

療養通所とスペースを共有しているため活動スペースの制限はあるが活動に応じて環境づくりをしている。コロナ禍においても1日休所日は発生したが支援を続けることができた。

B 児童への支援内容

今年度の利用者は3名、年齢や発達の状況に差があり、集団での活動ではなく個別的なケアや活動を中心として、季節のイベントなどは一緒に活動を行う。職員間のコミュニケーションは勤務時間の関係から支援前に打ち合わせを行い、終了後は児の記録を記入、次の活動前に必要に応じて打ち合わせを行うようにしている。すべての打ち合わせが記録に残るわけではないためプロセスが確実に周知できるように記録を充実させる必要がある。

C 関係機関との連携

横浜サポートプランを利用している児がほとんどであった。医療的ケアもあり、通院時の内容を家族を通じて報告することはあった。

D 保護者への説明責任・信頼関係

送迎時にコミュニケーションをとっている。日常の中からニーズ把握や今後の計画についての情報を得ることがほとんど。特に面談の時間は設けていない。父母の会はなく、情報発信も乏しい。

E 非常対応

療養通所と共通で年2回防災訓練を行っている。  
マニュアルをしらない

保護者による評価

A環境面

必要なスペースは確保されていると思う  
Nsも3人いるので安心

B 児童への支援内容

ニーズに沿った支援計画で支援が行われている。  
その時々々の状態・成長で対応している。  
季節のプログラムがある。  
障害のない子どもとの関りはない。  
こどもは通所を楽しみにしている。

C 事業所からの情報発信

利用に必要な説明事項は説明された。  
父母の会や事業所の会報はない。  
支援時の様子などの情報伝達はできている。  
ペアレントトレーニングの機会はない。

D 非常対応

避難訓練などの緊急時訓練の実施はわからない。

事業所内での分析

【共通点】

活動スペースなどの必要な環境は確保されている。  
ニーズが反映された支援計画にそった支援が行われている。  
支援時の様子などは家族に共有できている。  
事業所としての情報発信がほとんどない。

【相違点】

非常対応について伝わっていない。

分析・検討してみて…

事業所の改善点

事業所の強み

個別的なニーズを汲んだ支援計画  
体調・状況に合わせた日々の活動  
活動中の様子の記録・写真の共有

緊急時の対応マニュアルや防災訓練の周知  
事業所としての情報発信の手段を検討  
打ち合わせ内容が周知できるような記録づくり  
関連機関との連携強化  
親同士のつながりの機会について検討

事業所の改善への取り組み

- ・緊急時の対応についてはマニュアルの案内とともに児に必要な対応方法を家族と共に整え、緊急時に十分な対応ができるようにしていく。
- ・細かな打ち合わせを可視化して職員間の意思疎通を推進する。
- ・状況に応じて関係機関との情報交換を行う。
- ・会報などで情報発信を行う。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

保護者様の評価のみならず、事業所内でもそれぞれ認識が異なる分野があることが分かったので自己評価を行い今後の改善点を検討できたことがとても良かった。

事業所名 悠 YOU こどもデイ

担当者 那須 夕子